

# 令和4年度第3回富里市男女共同参画社会づくり懇談会

## 議 事 録

〈日時〉 令和4年12月2日（金）

午後2時00分～2時45分

〈場所〉 すこやかセンター2階会議室1

### ■出席者

【委員】 渡邊薫座長（教育関係者）

田口実栄子委員（千葉県男女共同参画地域推進員）

古賀恵美子委員（まちづくりコーディネーター）

大森秀明委員（公募委員）

宮本和子委員（民生委員・児童委員）

鈴木隆次委員（富里市企画財政部長）

【事務局】 細野経営戦略課長、藤田課長補佐、小澤主査補

【傍聴人】 なし

### ■配布資料

- ・ 令和4年度第3回富里市男女共同参画社会づくり懇談会次第
- ・ 資料1 富里市男女共同参画計画（第3次）（素案）
- ・ 資料2 富里市男女共同参画計画（第3次）素案概要

### ■次第

1 開会

2 座長あいさつ

3 議題

富里市男女共同参画計画（第3次）素案について（資料1・資料2）

【事務局】 資料1及び資料2に基づき説明。

【委員】 DVの調査をしたと書いてあるが、DVという言葉が皆が理解できているのか、この言葉を知っているのか、そのあたりはどうなのか。

【事務局】 計画の完成版には、巻末に計画策定の経過、懇談会の要綱とあわせて、専門的な用語について資料編としてつける予定である。本日はお示しできずに申し訳ない。

【委員】施策の指標の目標値で「年1回以上」という回数が出てくるが、年1回以上と言っても1回ということもあることを考えると、それが十分なのかという印象を持ったが、説明の中で、行ったことでどうということにつながっていくかというところがしっかり具体的に出ていくということであれば、「1回以上」という表記でもいいのかなど思った。「どういう風に」というところは学校からどういう風に成果を引き出すのか、どういう成果が出て、それによってどうなったかという汲み取り方について伺いたい。

【事務局】現状値が「年1回」で、目標値「年1回以上」であまり変わっていないという御意見をいただいたことについては、担当課に伝えさせていただき、ただそれで数値は変わらないかもしれないが、お話は伝えさせていただき。  
進捗状況の確認の仕方だが、基本的には担当課で進捗状況を確認し、事務局に報告する形になる。

【委員】男女共同参画や男女平等は、私達の世代、私より上の世代では、男女平等と急に言われてもできないことである。次の世代ではだんだんと男女平等が位置付けられ、急に見直されるかということ、やはり見直されない。そこには世代の差がある。小さい時から子ども達に男女は平等だよ、偏見をもってはいけないよと、子どもの時から意識付けをしていただければいいなと思った。ここで私たちが男女共同参画について話をしていても、結局、これは担当課の話とって、流れが分かれてしまう。1つの円卓ではない。話が分かれてしまうと、位置付けられないのではないかと思う。担当課も考えてくれてはいると思うが、ここだけのものではなく、全体的に話せる場があった方がいいと思った。

【座長】いろいろな組織が関わっていて、それらを集約して進捗状況をまとめると思う。点検評価の時には、いろいろな課のものが集まってくるということでよろしいか。

【事務局】各担当課において取り組む業務があるので、専門的に実施しているところは担当課が評価をして、それを全体的なとりまとめとして一つにまとめあげるので、全庁的に取り組む形になっている。

【委員】 パートナーシップ制度は富里市では実施されておらず、アンケート結果では実施した方がいいとは出ているが、市の方針として実施する方向で考えているのか。パートナーシップを実施するのかもしれないのかという議論はどこで行っているのか。議会で行っているのか。市民に自治会などで集まって行っているのか。市は、どんな時にどういう方にどんな説明をしているのか。

【事務局】 パートナーシップ制度、ファミリーシップ制度を導入している先進市は見受けられるが、現段階での富里市の計画としては、制度に関する調査研究というところである。制度の導入の仕方も含めて検討をしていき、今後どのように取り組めばいいかを研究していきたいという施策となっている。現時点でどのように取り組んでいくかは決まっていない。

【委員】 その中で議論をしていると思うが、実施した方がいいという人、実施しない方がいいという人もいるかもしれない。実施した方がいいのはなぜか、実施しない方がいいのはなぜか。例えば、パートナーシップを実施すると子孫が残せないから、世の中はだんだん細っていつてしまう、その辺のところの議論はあったのかをお聞きしたい。

【事務局】 昨年度実施したアンケート調査で、パートナーシップ制度についてどう思いますかという問いで、実施した方がいいという意見が多かったので、今回、制度導入について調査・検討をしていくといった段階である。繰り返しにはなるが、どういった形にしていくかは、これからの検討事項である。

【委員】 パートナーシップ制度を実施するに当たっては、市議会の了承が必要なのか。

【事務局】 パートナーシップ制度を導入するに当たって説明は必要になるが、議会の承認まで必要かどうかはお答えできないが、いずれにしても議会への説明は必要だと考えている。

【委員】 パートナーシップ制度を条例化するとなれば、市議会の議決が必要となる。ただ、パートナーシップとしてのソフトなやり方、例えば証明書を出してあげる、効力のないようなものであれば予算化するということでの議決は必要となる。他市町村でのパートナーシップ

制度等でよく見るのが、市営住宅の貸付をパートナーであってもできるとか、住民票を取れるようにしてあげるとか、そういう形になり、許可や権限が必要なものについては議会の議決が必要、ただサービスとして実施するという部分については議決の必要のない部分になってくると考える。何をするかということを決めていく段階で、クリアするハードルが決まってくると思う。

【委員】市議会議員の方と話をしたが、パートナーシップ制度についてあまりよくわかっていなかった。だから、市の職員が議員の方々に丁寧に説明をして理解をしてもらった上で、何が必要で何が不要かを市議会議員が考えなければいけない話だと思う。こういうことは早く実施するに越したことはない。こういう方が富里市に来てくれるかもしれないし、住民が増える結果になるかもしれない。

【委員】例えば、市民が集まって勉強会をするとか、こういうことを話し合いますよとか、こういう勉強会をしたいですよと経営戦略課に伝え、盛り上がってきたら市も考えようかと前向きに進めていくのか。2,000 人に出して答えたのが何百人かのアンケートの結果で、パートナーシップを導入するとはとても思えない。市議会議員の方のやる気もわからないので、もう少し市民に呼び掛けて、こういう勉強会をしましょうとか、そういったところがあれば市も善処して考えていくということなのか。

【事務局】パートナーシップ制度、ファミリーシップ制度の導入に当たっては、今後調査検討をしていき、具体的な取組内容が決まってくれば、その内容について、こちらの懇談会にお示ししたり、市民の方にも御意見をいただきながら精査し決めていく形になる。今の段階でどんな形でニーズなどを調査していくかは示せないが、より良い方向で取り組んでいきたい。

【委員】「男は仕事、女は家庭」という考えについて、結果を見ると男は仕事、女性は家庭というのが多い。考え方については男女平等だよとわかっているにしても、結果的にはそうなってしまう。それはなぜか。

【座長】「男は仕事、女は家庭」という考え方について固定されてしまっているのはなぜかということか。

- 【委員】結果的には平等でなければいけないとわかっている。それなのに、世の中では男は仕事に行き、女性が家庭というのが多い。考え方はそうではないと思っているのに、そうなってしまっている原因は何か。そこのところを追及しているか。
- 【委員】昔からの慣習的なところでそういう形ができ上がっていたのが一つ、長い年月をかけて男性の方が賃金が高くなっているという状況が一つ、いろいろな意味で出世などのそういうところについても男性の方が早いというような流れがあって、その方が家庭を維持しやすいというところもあったと思う。この部分については、国でも賃金の格差、意思決定の場に女性が少なかったことなどの改善は、国の方向としてもっている。市町村で、男性も女性も同じ賃金を出しなさいよというのは、制度的に難しい。国の大きな方針として、今動いている。海外に行くと、国会議員の数も男女の比率を決めてということが法律で決まっている。そういうような流れの中で、男性も女性も平等であって、お子さんが生まれたときの休みの取り方についても、最近は男性もとりなさいと、女性が取るのが当たり前ということではないというような全体的な流れが少しずつ出てくることで、解消されつつあるのかなと思っている。
- 【委員】男は仕事に行って、女性は家庭っていうのが昔から続いているというのは、賃金の格差もさることながら、子どもから見た場合にお父さんというよりもお母さんという方がいろいろ細かいところまで面倒をみってくれるからだと思う。男はやらない、慣れていないのかもしれないが。その辺のところをどうやって解釈をして、2人が同じ時間だけ子どもに接する時間を持つんだよということ、子どもから見たら母親と接したほうが楽だが、その辺をどう変えていくか。逆に少し変わっていてもそれはそれでいいとなるのか、絶対にフィフティーフィフティーじゃなきゃいけないのか。その辺のところの考え方はそれぞれ違ってくると思う。それぞれの家庭で暗黙の了解でいいよ、そんなきっちりフィフティーフィフティーにしなくてもいいよということなのか、フィフティーフィフティーになのか、そういうところの議論はどうなっているのか。そういう議論を詰めていかなければいけないのではないだろうか。こういう議論の場でもいいが、そういう議論をどこでもできるようなものがあった方がいいと思う。ただ単にフィフティーフィフティーでなければいけないという形になっているが、ここについては、そうじゃなくてもいい場

面だと思う。ただそういうものがないし、機械的に平等というような形。平等にもっていくためには、子どもをどこかに預けて迎えに行くのを交互にやれば平等としていくのか、バランスをとっていくということを考えていくのか、それとも富里市では十分に保育施設があるから、そういうこともできるよとか、そういうようなことをどんどん煮詰めていっているのか、この表では先のことまで考えているかはわからないが、そこまで考えておく必要があると思う。

【委員】アンケートの質問を考える時に行政側がどれくらい話し合ったのか、「男は仕事、女は家庭」ということについて、どういう風に考えたのかを聞きたいという質問なのかなと思った。この問題を作るに当たって、自分達はどれくらい話し合ったのかということを知りたいかなと思った。このことについて、こういう考えでこの問題を出したというところを教えてくださいたいかなと思う。

【事務局】アンケート調査の「男は仕事、女は家庭」は、昔からの代表的な固定観念、そういったワードになっていて、昨年アンケート調査を実施したが、5年前の調査でもこのワードを使っている。5年経ってどうなっているかを比較するために、代表的なワードとして使った。アンケート調査を実施するという事で庁内の本部会議にかけているので、そこでの議論はあるが、基本的には毎回同じアンケートをとってどう推移しているかを知るために同じワードを使っている。

【委員】5年前に同じアンケートをとっているのであれば、推移が皆さんにわかるように、5年前と今との違いがわかるようにした方がいいのではないかな。

【事務局】前回調査の39.9%と比較すると9.2ポイント増加していると記載はしている。

【委員】言葉ではなく、グラフをわかりやすいものにした方がいいのではないかな。全体的にどう変化しているのかが気になる方もいると思う。比較対象があった方がいいのではないかな。

【委員】前回のものと目で見て比較できた方が見やすいので、全体だけの比較を視覚的に見えるように修正する。

- 【委員】男女共同参画についてのワークショップやセミナーなど、そういったことを富里市では最近実施していないが、計画が新しく変わって、そういったものを実施する予定はあるのか。
- 【事務局】数年前までは講師を呼んで市民向けに男女共同参画講演会も行っていたが、ここ数年実施できていない。動画配信講座などの紹介や、予算立てが現時点ではないが、工夫して市民の方への啓発や講演のようなもの、講演が一番いいのかはわからないが、今後の取組の中で、講演会についても御意見をいただいたので検討課題としていきたい。
- 【委員】庁内で勉強会を実施されていると思うが、男女共同参画について職員向けの教育を最近実施しているのか、実施する予定はあるのか。
- 【事務局】令和2年度に実施したことはあるが、それ以降は実施していない状況である。人事で行う研修もあるので、総務と相談しながら今後実施できるように検討していきたい。
- 【委員】世界的にSDGsや男女共同参画について国でも言われているので、ぜひ職員にも勉強していただきたいと思う。外に行かなくても、自分達で勉強会も実施できるかなと思う。
- 【委員】ワーク・ライフ・バランスについて、市職員が率先してワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組を推進します、とあるが、自分たちが率先して実施していくことは大事、皆さんのお手本になる、見本になるということを示していくことは大事だと思う。それにあわせて勉強会を行って、こういうことを進めていきたいと思いますというような形で取り組めばいいと思う。
- もう1点、子育て・保育への支援というところで、子育て支援サービスの実施と情報提供とあるが、これは女性が働いている家庭だけではなくて、ということで捉えていいか。
- 【事務局】先ほども申し上げたが、総務課と話して、研修ができるように検討していきたい。子育て支援サービスについては、委員おっしゃるとおりである。

4 その他

事務局から、今年度の懇談会は終了、任期も今年度末で終了する旨を報告。

5 閉会